

すくわくプログラム

# 音の研究

令和6年度 ほほえみの森保育園

# 音をテーマに選んだ理由

以前より園内の楽器コーナーで太鼓を鳴らしたり、身近な素材を使った手作りのマラカスでリズム遊びを楽しむなどの姿が多く見られた。“たたくと音が響く”“振ると音が鳴る”という因果関係の気付きや、素材や楽器による音の違いを楽しんでいる時期であると捉え、子どもたちの興味をさらに深めたいと思いテーマに設定した。

○ねらい

音が鳴る楽しさや不思議さを味わう

様々な楽器に親しみ興味を持つ

# 【カリンバってどう弾くの？】

8月、幼児フロア（2～5歳児異年齢）の一角に楽器コーナーを設置すると、その中から新しく提供したカリンバに興味を持った子ども達。

保育者が弾いて見せると「指ではじいて演奏するんだね。」と今まで出ていたキーボードとは音の出し方が違うことに気づいた。

【振り返り】保育者が答えを伝えるのではなく「どうしてだろうね。」と尋ねてみたり、姿で見せてみることで子どもたちが自分で考えるきっかけになると感じた。今後も関わり方のバリエーションを増やし楽しみながら学びを深めていけるようにしたい。

キーボードは  
押すと音が出るよ♪



どうやって音を出すのかな

僕のと音が違うね。



# 【カリンバの仕組み】

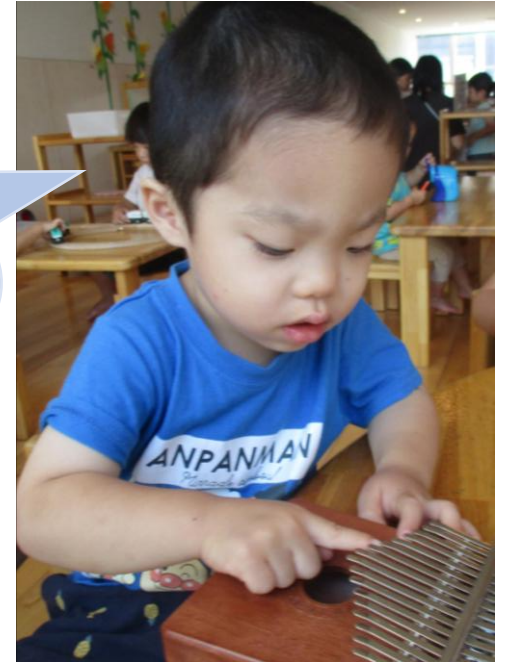
音の出し方を理解し、奏でることを楽しむ児が増えてきたので、次に保育者が「どうしてCとDの棒では音が違うのかな？」とはじいて演奏しながら子どもたちに尋ねてみた。

じっとカリンバを観察し、金属棒の長さが違う事を発見し、喜んでいた。

他の楽器も見比べて、音の出る仕組みへの興味が広がってきた。

【振り返り】コーナーに楽器が常設され、いつでも自由に手に取れることで、より一層楽器に興味を持つ児増えた。保育環境を整え、繰り返し遊んだり興味を持った時に手に取って集中して取り組める環境づくりの大切さを改めて感じた。

棒の長さがちがうから音が変わるのかな？



木琴も長さが違うぞ！

# 【ドレミパイプの仕組み】

遊びの中で楽器の音の出る仕組みへ興味を持った子ども達。そんな姿から、9月は新しくドレミパイプを用意し、ぞう組の子ども達で触ってみることにした。

初めて見るドレミパイプに「楽器じゃないみたい」「何これ」と不思議そうに触れ、保育者が音を出してみると、面白がって真似て、手でパイプを叩いたり、パイプで床を叩いて音を出していた。

他にはどんな楽器があるの？という意見も出てきて、興味が広がっている様子が見られた。

【振り返り】カリンバや木琴のように長さの違いで音程を奏でる楽器ということでドレミパイプを用意した。長さの違いと音の違いに着目して楽器をそろえてきたが、長さだけでなく重さや量が違っても音が変わるという学びにつなげていきたいと保育士間で話し合った。



この棒なあに？  
長さと色が違うね。



叩くと音が出るよ！  
みんな音が違う！

# 【空き缶ドラムの仕組み】

9月、2回目の活動。前はドレミパイプに触れたぞう組。その際の様子から、音程に影響するのは長さだけでないことを学べたらと考え、今回は空き缶に水をいれたものを用意して活動を行って見た。

「どうして一つ一つ音が違うかわかる？」という保育者の質問にしばらく音を出して考えていた子ども達。

しばらくすると。缶を持って重さを確かめ始めた子が「重さが違う！！」と気づき「**重い方が音が低い。**」と発見していた。



こっこの缶の方が重たいよ。

中に水が入ってるみたい

【振り返り】子どもたちは空き缶でも楽器のように演奏出来ることに驚き楽しんでいました。空き缶だと音の違いがわかりづらく、高低の違いを聞き取りにくかったので、保育者が質問に工夫をして違いに気付けるようにした。ワイングラスなど音がわかりやすいものを用意しても良かったのではないかと感じた。

# 【力を合わせて演奏してみよう】

10月、ドレミパイプが一音一音違うことを学んだ子どもたちと一緒に、みんなで協力して一曲演奏してみることに！！

どの音を担当するか話し合ってそれぞれの音を持って並び、保育者の合図に合わせて楽譜をみながらみんなで演奏した。

みんなでリズムを合わせて演奏するのは難しかったが、すぐにコツを掴んで楽しんでいった。

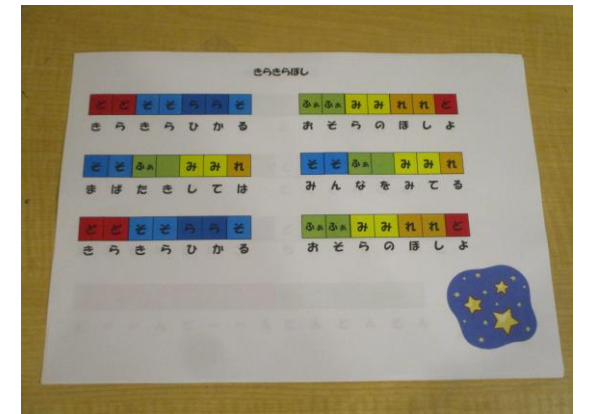
【振り返り】保育者が考えた活動ではあったが、その中で子どもたちが話し合っ分担当を決めるなどの時間も大切にしながら進化した。音に触れるだけでなく、協力する楽しさも感じながら活動を進めることが出来たのではないかな。



ドから順番に  
並んでみよう



楽譜と先生の  
合図両方を  
みながら  
合わせるのって  
むずかしい…



# 【ハンドベルの仕組みを調べよう】

11月、子ども達と話し合い、今年度はフェスティバルで合奏を行うことに決めた。ハンドベルに触れる今回、今まで同様に何で音が変わるのだろうかと子どもたちへ質問し、子ども達とかいぎをしてみることに。様々な考察をする子ども達…

【振り返り】これまでの活動を振り返りながら、どうして音程が奏でられるのかをみんなで考えてみた。ピアノや木琴、ドレミパイプは長さが影響していたこと、空き缶ドラムは重たさ（水の量）が影響していたことなどを考察し、様々な仮説を導き出して驚いた。重さが違うという意見が出てくるのは想定していた為、実験できる用意をしておいたことで子どもたちも集中して取り組んでいた。「なぜ」と感じた時に調べられる環境があることの大切さを実感した。

たかさ（ながさ）は  
いっしょだね！

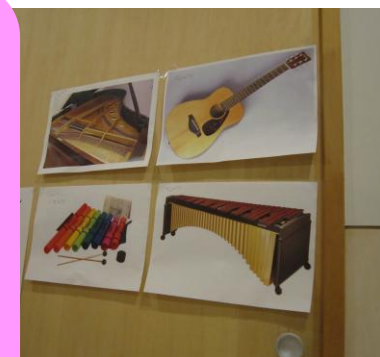
ばねのながさが  
ちがうきがする

おもさも  
ほとんど  
いっしょだね

いや～  
おんなじだよ。

色々な  
楽器の  
音の出る  
しくみの  
振り返り

重さを計測してみることに…



## 【ハンドベルの仕組みを調べよう②】

子どもたちは、どこかに長さの違いがあると  
考え、色々な場所の長さを見比べていた。

答えが見つからず難航していた為保育者が  
「同じドとドだけど、音の高さが違うね。」と  
赤いベルを2本を持って子どもたちの目の前に出  
してみた。すると、ベルの形が少しだけ違うこと  
に気付き、**形が音の違いに影響を及ぼすこと  
も発見した。**

「角度だ！角度が違う！」と言い始めた子がい  
て、角度という言葉が出てきたことに驚いた。

みて！  
ちょっとかたちが  
ちがう！！

すごい！  
ほんとうだ！



微妙な違いを  
見つけたよ！



【振り返り】隣同士の音を見比べても微妙なベルの角度の  
違いを発見するのが難しいと考え、8音ある中で一番遠いド  
とドを見比べられるように保育者が2本を持って子どもたち  
の前に出してみた。そこで子どもたちの気付きが広がった。  
必要に応じて保育者がサポートすることで発見を喜ぶ姿が  
見られた。活動中、子どもたちの意見を保育者がメモして  
いたが、子ども達自身が調べた子を書いて掲示するなど、  
今後の活動ではさらに子どもたちが自主的に取り組めるよ  
うにしたいと感じた。

## 【まとめ】

- 保育者も「どうしてだろう」と興味を持ち、わくわくしながら子どもたちと一緒に考えることが大切である
- 事前に活動の中での子どもたちの姿を想定・準備しておくことで子どもたちの興味を広げることが出来る

## 【今後の計画】

- 身近にあるもので演奏するなど、音探しの活動なども取り入れ、音がより身近になるようにしたい
- 音遊びとしてオノマトペ遊びを実施し、表現力・想像力・語彙力へも繋げていきたい